

# 2015年度決算のご報告

## 2015年度の事業概況

### 経済環境

2015年度の日本経済は、政府の景気対策や日銀の金融緩和政策を背景に企業収益や雇用環境は改善の動きがみられましたが、年明け以降は日銀がマイナス金利導入に踏み切り、また、円高の急進や原油安など、先行き不透明な状況が続いています。

海外経済は、米国では底堅い個人消費や堅調な住宅市場などを背景に景気回復基調が持続しているものの、中国や新興国の景気減速などの影響により弱含みで推移しています。

生命保険業界は、販売チャネル再編の動きが活発化しました。また、保険業法改正に伴う態勢整備が進められています。日銀によるマイナス金利導入の影響等により、一部商品の販売停止や保険料値上げなどの動きがみられました。

### 営業概況

このような経済環境、業界動向の中、当期の営業概況は以下のとおりでした。

商品の開発面では、2015年10月に「医療保険 新キュア・サポート」「終身保険 新ライズ・サポート」を発売しました。また、「医療保険 新キュア」「医療保険 新キュア・レディ」の保障内容をリニューアルしました。

2015年10月より、当社が取り扱う保険商品の契約者を対象に、「健康医療相談サービス」の提供を開始しました。商品に付帯する「健康医療相談サービス」は、ティーベック株式会社が提供する「24時間電話健康相談サービス」「セカンドオピニオンサービス」「糖尿病専門サポートサービス」の3つです。

### 決算業績の概況

収支状況は、収入面では保険料等収入は、2,021億円(対前年度比116.8%)、運用収益は、188億円(同137.0%)となりました。支出面では、保険金等支払金が3,791億円(同567.6%)、事業費は670億円(同118.8%)になり、当期の経常損失は356億円となりました。

抱合せ株式消滅差益として特別利益408億円を計上し、税引前当期純利益および当期純利益は、それぞれ、41億円、135億円となりました。

責任準備金は、標準責任準備金の積立を維持しています。また、経営の健全性を示す指標であるソルベンシー・マージン比率は1,975.1%となりました。

年度末総資産は、ハートフォード生命との合併などにより、前年度末から1兆1,933億円増加し1兆9,663億円となりました。

### 契約の概況

個人保険の新契約は、件数で555,918件(対前年度比99.0%)、保険金額で1兆7,927億円(同100.3%)となりました。

個人保険の保有契約は、件数で2,947,125件(対前年度末比115.7%)、保険金額で8兆7,723億円(同115.8%)となりました。個人年金保険の保有契約は、ハートフォード生命との合併により増加し、件数で181,311件、保険金額で9,867億円となりました。

### 資産運用の概況

資産運用面では、安定した運用収益を確保するという基本方針のもと、円建て公社債中心のポートフォリオに加えて、収益性向上の観点から、為替ヘッジ付外貨建て公社債での運用を行っています。また、中長期的に安定収入を確保する目的で不動産での運用も行っています。

【重要】オリックス生命は、2015年7月1日付でハートフォード生命と合併しました。当資料は、法定会計ベース<sup>(\*)</sup>の数値で開示しています。

※法定会計ベース

■2014年度以前業績…オリックス生命の数値

■2015年度業績…【期末残高等の状況を表す項目】合併後のオリックス生命の数値

【期間業績を表す項目】2015年4月～6月までの合併前のオリックス生命の数値と2015年7月からの合併後のオリックス生命の数値を合算



## 主要な業務の状況を示す指標

### ■ 2011年度～2015年度における主要な業務の状況を示す指標(会社法基準)

(単位:百万円)

項目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
経常収益	133,509	145,917	163,016	187,572	<b>473,891</b>
経常利益	△ 12,944	△ 12,643	△ 19,642	△ 20,653	△ <b>35,698</b>
基礎利益	△ 14,172	△ 13,518	△ 21,686	△ 20,657	△ <b>11,804</b>
当期純利益	△ 7,577	△ 9,292	△ 15,005	19,305	<b>13,546</b>
資本金及び発行済株式の総数	32,500	40,000	47,500	59,000	<b>59,000</b>
総資産	1,000,000株	1,300,000株	1,600,000株	2,060,000株	<b>2,060,000株</b>
うち特別勘定資産	522,969	583,759	645,402	772,934	<b>1,966,302</b>
責任準備金残高	—	—	—	—	<b>734,484</b>
貸付金残高	483,239	530,638	592,182	666,593	<b>1,809,513</b>
貸付金残高	38,028	29,562	17,888	9,024	<b>4,981</b>
有価証券残高	380,636	389,543	465,983	551,170	<b>1,495,251</b>
ソルベンシー・マージン比率	519.8%	802.8%	758.3%	746.4%	<b>1,975.1%</b>
従業員数	746名	758名	791名	942名	<b>1,239名</b>
保有契約高	5,084,032	5,824,564	6,801,960	8,075,677	<b>10,282,414</b>
個人保険	4,695,741	5,370,207	6,328,332	7,572,849	<b>8,772,338</b>
個人年金保険	3,742	2,982	2,611	2,392	<b>986,717</b>
団体保険	384,549	451,373	471,016	500,435	<b>523,359</b>
団体年金保険保有契約高	—	—	—	—	—

(注) 保有契約高とは、個人保険・個人年金保険・団体保険の各保有契約高の合計です。

なお、個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したものです。ただし、一時払個人年金保険の年金支払開始前契約については、基本保険金額を計上しています。

### ■ 米国会計基準(SEC基準)による主要な経営指標

オリックスグループは、米国会計基準(以下「SEC基準」)を採用しているため、当社においても、会社法基準のほかにSEC基準を採用し、経営管理の指標としています。

(単位:億円)

項目	2013年度	前年度比	2014年度	前年度比	2015年度	前年度比
営業収益	1,614	111.3%	1,909	118.3%	<b>2,230</b>	<b>116.8%</b>
生命保険料等収入	1,468	111.7%	1,691	115.2%	<b>2,053</b>	<b>121.4%</b>
資産運用収益	146	107.1%	218	149.8%	<b>177</b>	<b>81.0%</b>
営業費用	1,322	110.9%	1,513	114.5%	<b>1,895</b>	<b>125.3%</b>
生命保険費用	1,092	110.2%	1,226	112.3%	<b>1,514</b>	<b>123.5%</b>
資産運用費用	37	106.6%	39	104.2%	<b>49</b>	<b>124.4%</b>
その他費用	192	115.6%	248	128.8%	<b>332</b>	<b>134.0%</b>
関係会社受取配当金	—	—	300	—	—	—
税引前当期純利益	292	113.3%	697	238.4%	<b>336</b>	<b>48.2%</b>
法人税等	96	101.7%	118	122.7%	<b>97</b>	<b>82.5%</b>
当期純利益	196	120.0%	579	295.2%	<b>238</b>	<b>41.2%</b>
総資産	7,323	111.4%	8,794	120.1%	<b>21,222</b>	<b>241.3%</b>
保険契約債務	4,544	106.7%	4,942	108.8%	<b>16,686</b>	<b>337.6%</b>
株主資本(払込資本金)	1,970 (475)	118.9%	2,822 (590)	143.3%	<b>3,389 (590)</b>	<b>120.1%</b>

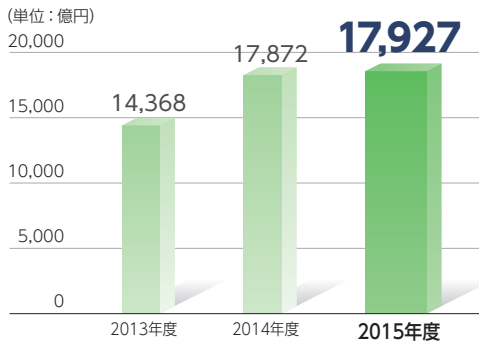
(※) 関係会社受取配当金300億円は、ハートフォード生命からの利益配当金です。

# 契約の状況(個人保険)

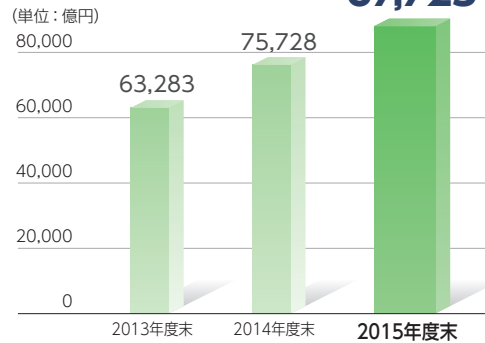
## 契約高について

2015年度の新契約高は、「終身保険ライズ」や「収入保障保険キープ」の販売が好調であったため、前年度と比べて54億円増となりました。保有契約高は、前年度末比115.8%の8兆7,723億円となりました。

### ■ 新契約高



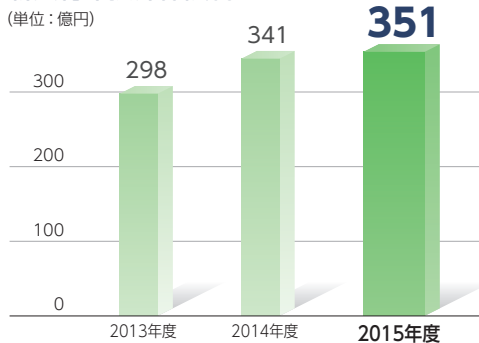
### ■ 保有契約高



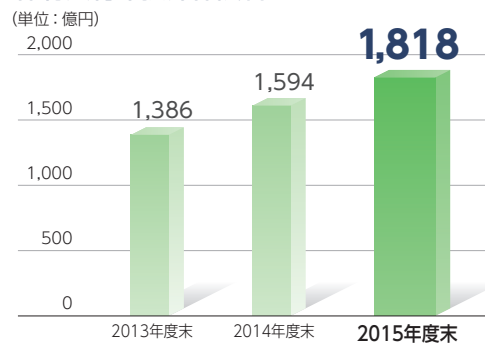
## 年換算保険料について

2015年度の新契約年換算保険料は、「終身保険ライズ」に加え、2015年10月に発売した「医療保険 新キュア・サポート」や「医療保険 新キュア」「医療保険 新キュア・レディ」の新特約「重度三疾病一時金特約」の販売が好調であったため、前年度比102.7%の351億円となりました。保有契約年換算保険料は、前年度末比114.0%の1,818億円となりました。

### ■ 新契約年換算保険料



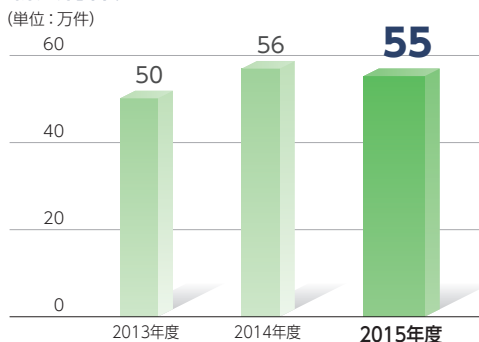
### ■ 保有契約年換算保険料



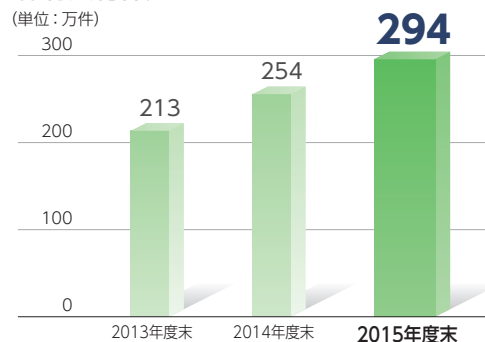
## 契約件数について

2015年度の新契約件数は、「終身保険ライズ」や「医療保険 新キュア・サポート」の販売が好調であったため、3期連続で50万件を超える実績となりました。保有契約件数は、前年度末比115.7%の294万件となりました。

### ■ 新契約件数



### ■ 保有契約件数



# 収益の状況

(単位:百万円)

項目	2013年度	2014年度	2015年度	前年度比
経常収益	163,016	187,572	473,891	252.6%
<b>1</b> 保険料等収入	147,823	173,089	202,149	116.8%
資産運用収益	14,482	13,728	18,810	137.0%
その他経常収益	710	754	252,930	33,533.5%
経常費用	182,658	208,225	509,589	244.7%
<b>2</b> 保険金等支払金	66,438	66,810	379,192	567.6%
責任準備金等繰入額	62,676	75,042	—	—
資産運用費用	3,748	3,937	55,708	1,414.9%
事業費	45,853	56,426	67,030	118.8%
その他経常費用	3,941	6,008	7,657	127.4%
経常損失	19,642	20,653	35,698	172.8%
特別利益	—	37,721	40,897	108.4%
特別損失	127	309	367	118.5%
契約者配当準備金繰入額	801	512	674	131.5%
税引前当期純利益	△ 20,571	16,245	4,157	25.6%
法人税等合計	△ 5,565	△ 3,060	△ 9,389	—
<b>3</b> 当期純利益	△ 15,005	19,305	13,546	70.2%

オリックス生命について

お客様さまにご満足いただくために

2015年度決算のご報告

コーポレートガバナンスの強化について

会社概要

諸データ

## 1 保険料等収入

**2,021** 億円

保険料等収入は、保有契約が増加したことなどにより、前年度比116.8%の2,021億円となりました。

## 2 保険金等支払金

**3,791** 億円

保険金等支払金は、ハートフォード生命との合併に伴い年金や解約返戻金、再保険料支払が増加したことに加え、医療保険など第三分野商品の保有契約が伸びたことにより給付金支払が増加したことなどから、前年度比567.6%の3,791億円となりました。

## 3 当期純利益

**135** 億円

当期純利益は、ハートフォード生命との合併に伴い抱合せ株式消滅差益を408億円計上したことなどから、135億円の黒字となりました。

# 資産・負債の状況

(単位：百万円)

項目	2013年度末	2014年度末	2015年度末	前年度比
<b>1</b> 資産の部合計	645,402	772,934	<b>1,966,302</b>	<b>254.4%</b>
<b>2</b> 運用資産	613,800	735,058	<b>1,731,809</b>	<b>235.6%</b>
その他	31,601	37,876	<b>234,493</b>	<b>619.1%</b>
負債の部合計	624,631	704,740	<b>1,861,927</b>	<b>264.2%</b>
<b>3</b> 責任準備金	592,182	666,593	<b>1,809,513</b>	<b>271.5%</b>
その他	32,448	38,146	<b>52,413</b>	<b>137.4%</b>
純資産の部合計	20,770	68,194	<b>104,375</b>	<b>153.1%</b>
<b>4</b> 資本金	47,500	59,000	<b>59,000</b>	<b>100%</b>
資本剰余金	33,704	45,204	<b>45,204</b>	<b>100%</b>
利益剰余金	△ 63,390	△ 43,991	△ <b>30,444</b>	—
<b>5</b> その他有価証券評価差額金	2,956	7,981	<b>30,615</b>	<b>383.6%</b>

## 1 総資産

**1兆9,663億円**

総資産は、ハートフォード生命との合併などにより前年度末から1兆1,933億円増加し、1兆9,663億円となりました。

## 2 運用資産

**1兆7,318億円**

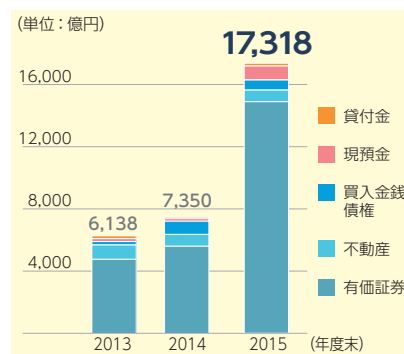
運用資産は、ハートフォード生命との合併などにより9,967億円増加し、1兆7,318億円となりました。

### ■ 運用資産の構成

(単位：百万円)

項目	2013年度末		2014年度末		2015年度末	
	金額	占率	金額	占率	金額	占率
有価証券	465,983	75.9%	551,170	75.0%	<b>1,495,251</b>	<b>86.3%</b>
不動産	90,290	14.7%	75,231	10.2%	<b>74,609</b>	<b>4.3%</b>
買入金銭債権	21,517	3.5%	83,105	11.3%	<b>65,302</b>	<b>3.8%</b>
現預金	18,120	3.0%	16,526	2.2%	<b>91,664</b>	<b>5.3%</b>
貸付金	17,888	2.9%	9,024	1.2%	<b>4,981</b>	<b>0.3%</b>
運用資産	613,800	100.0%	735,058	100.0%	<b>1,731,809</b>	<b>100.0%</b>

※不動産については土地・建物・建設仮勘定を合計した額を計上しております。



有価証券 14,952億円：有価証券は、前年度末より9,440億円増加し1兆4,952億円となりました。

不動産 746億円：不動産は、前年度末より6億円減少し746億円となりました。

貸付金 49億円：貸付金は、前年度末より40億円減少し49億円となりました。

## 3 責任準備金

**1兆8,095億円**

責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金を積み立てています。2015年度末は、ハートフォード生命との合併などにより1兆1,429億円増加し、1兆8,095億円となりました。

## 4 資本金

**590億円**

資本金は、590億円、資本準備金は452億円となっています。

## 5 その他有価証券評価差額金

**306億円**

金利が低下したことなどにより、保有する公社債の時価が増加し2015年度末のその他有価証券評価差額金は306億円となりました。

# 健全性について

## ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率

**1,975.1%**

ソルベンシー・マージン総額は、その他有価証券評価差額金、資本金等、全期チルメル式責任準備金相当額超過額などの増加により、757億円増加しました。

リスク合計額は、ハートフォード生命との合併により子会社株式が無くなったことから、資産運用リスク相当額が191億円減少しました。これらの結果、ソルベンシー・マージン比率は前年度末から1,228.7ポイント増の1,975.1%となりました。

(単位：百万円)

項目	2013年度末	2014年度末	2015年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	58,897	155,040	230,822
資本金等	17,813	60,213	73,760
価格変動準備金	1,840	2,140	2,649
危険準備金	6,816	8,203	16,078
一般貸倒引当金	267	48	—
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前)) × 90%(マイナスの場合100%)	3,844	10,095	38,269
土地の含み損益 × 85%(マイナスの場合100%)	1,843	3,780	7,576
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	78,630	94,496	104,697
負債性資本調達手段等	—	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	△ 52,159	△ 23,939	△ 12,209
持込資本金等	—	—	—
控除項目	—	—	—
その他	—	—	—
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_8)^2+(R_2+R_3+R_7)^2+R_4}$ (B)	15,533	41,541	23,372
保険リスク相当額 $R_1$	3,970	4,727	5,453
第三分野保険の保険リスク相当額 $R_8$	2,852	3,482	4,140
予定利率リスク相当額 $R_2$	1,506	1,484	1,665
最低保証リスク相当額 $R_7$	—	—	—
資産運用リスク相当額 $R_3$	11,773	37,784	18,658
経営管理リスク相当額 $R_4$	603	1,424	897
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(B) \times (1/2)} \times 100$	758.3%	746.4%	1,975.1%

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条、第161条、第162条、第190条および平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

### ソルベンシー・マージン比率とは?

大災害や株式相場の大暴落など通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかどうかを判断するひとつの指標です。具体的には、純資産などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)を、数値化した諸リスクの合計額で割り算して求めます。この比率が200%を下回る場合には、監督当局によって早期是正措置がとられます。

$$\text{ソルベンシー・マージン比率(\%)} = \frac{\text{ソルベンシー・マージン総額}}{\text{リスクの合計額} \times 1/2} \times 100$$

### 諸リスクの意味

リスクの合計額は、保険リスクや予定利率リスク、資産運用リスク、経営管理リスクなど、それぞれの通常の予測を超える諸リスクを数値化して算出します。

#### 保険リスク相当額 ( $R_1$ )

大災害の発生などにより、保険金支払いが急増するリスク相当額

#### 予定利率リスク相当額 ( $R_2$ )

運用環境の悪化により、資産運用利回りが予定利率を下回るリスク相当額

#### 資産運用リスク相当額 ( $R_3$ )

株価暴落・為替相場の激変などにより資産価値が大幅に下落するリスク、および貸付先企業の倒産などにより貸倒れが急増するリスク相当額

#### 経営管理リスク相当額 ( $R_4$ )

業務の運営上通常の予想を超えて発生し得るリスク相当額

#### 最低保証リスク相当額 ( $R_7$ )

変額保険、変額年金保険の保険金等の最低保証に関するリスク相当額

#### 第三分野保険の保険リスク相当額 ( $R_8$ )

医療保険やがん保険などのいわゆる第三分野における保険事故の発生率等が通常の予測を超えることにより、給付金支払いが急増するリスク相当額

## 格付け

格付投資情報センター (R&I) **A+**  
保険金支払能力

Aの定義: 保険金支払能力は高く、部分的に優れた要素がある。

スタンダード&プアーズ (S&P) **A-**  
保険財務力

Aの定義: 保険契約債務を履行する能力は強いが、上位2つの格付け (AAA・AA) に比べ、事業環境が悪化した場合、その影響をやや受けやすい。

当社は、保険金支払能力や保険財務力について、お客さまに客観的な判断をしていただくために、格付機関に依頼し、「格付け」を取得しています。

※左記は2016年6月28日現在のものです。

※格付けの後に付加されている「+」「-」の記号は、同じ格付け等級内での相対的な位置を示しています。

(注) 格付けは、格付機関の評価であり、保険金の支払いなどについて保証するものではありません。また、格付けは将来の経済環境等の変化により、変更になることがあります。

詳しくは、格付機関のホームページをご覧ください。

## 基礎利益

2015年度の基礎利益

△118億円

基礎利益は、利息及び配当金等収入の増加などにより、前年度と比べて88億円赤字幅が縮小しています。

### 基礎利益とは?

「基礎利益」とは、保険料収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息および配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間収益の状況を表す指標で、一般事業会社の営業利益や、銀行の業務純益に近いものです。基礎利益は損益計算書に項目が設けられているものではなく、経常利益から有価証券の売却損益などの「キャピタル損益」と「臨時損益」を控除して求めたものです。

基礎利益は、

- ・ 保険料収入や保険金・年金・給付金や解約払戻金などの支払い、責任準備金の繰入れ (戻入れ)、事業費の支払いといった保険関係の損益
- ・ 資産運用関係の損益のうち、利息および配当金等収入 (貸付、預貯金、債券などから得られる利息や株式などから得られる配当をいいます) と支払利息などの費用といった予定利率で見込んだ運用収益に対応する収益などを表しています。

## 実質純資産

2015年度末の実質純資産

2,788億円

実質純資産は、前年度末より837億円増加し、2,788億円となりました。

### 実質純資産とは?

実質純資産額とは、有価証券や有形固定資産の含み損益などを反映した、いわば時価ベースの資産の合計から、価格変動準備金や危険準備金などの資本性の高い負債を除いた負債の合計を差し引いて算出するもので、行政監督上の指標のひとつです。実質資産負債差額ともいいます。

## 逆ざや

2015年度の逆ざや

△13億円

逆ざやは、11億円減少し、△13億円となりました。

### 逆ざやとは?

予定利率により見込んでいた運用収益を実際の運用収支が上回る状態を「順ざや」、下回る状態を「逆ざや」といいます。

(参考) 順ざや/逆ざや額の算出式 順ざや/逆ざや額 = (基礎利益上の運用収支等の利回り\*1 - 平均予定利率\*2) × 一般勘定責任準備金\*3

※1 基礎利益上の運用収支等の利回りとは、基礎利益に含まれる一般勘定の運用収支から契約者配当金積立利息繰入額を控除したものの一般勘定責任準備金に対する利回りのことです。

※2 平均予定利率とは、予定利息の一般勘定責任準備金に対する利回りのことです。

※3 一般勘定責任準備金は、危険準備金を除く一般勘定部分の責任準備金について、以下の方式で算出します。

(期始責任準備金 + 期末責任準備金 - 予定利息) × 1/2